

傾聴を

初めての「ぬくもりほっとらいん」の受話器の向こう側

平成31年4月22日、私は電話デビューをしました。

午前午後と1日のシフトを希望した私に、前半の時間を見学、後半の時間で1回は、その受話器を取ってみるといふ、近頃、味わうことになかった緊張感を身にまとうことになり、気持ち落ち着かせる為に、何度も何度も、受話器を取る動作、そしてそれに係る準備を整え、机に向かいました。



電話は鳴りません。さあ、準備は出来てますよ。電話は鳴りません。

『はい、ぬくもりほっとらいんです』ちよつと、小声で言ってみた。電話は鳴りません。

メモ用紙に日付を書いてみました。ペンもカチカチと、鳴らしてみました。それでも、電話は鳴りません。

研修のノートを開いてお読みをしようかな?でも、そんな大がかりなことを始めてみよう。頭の中で、靴を開き、研修時に作ったノートを出して無防備に電話に背を向けた途端、電話が鳴るといふシチュエーションが鮮明に浮かび上

がりました。

『いや、今はやめておこう』こうなると、無言の電話機と私の感情の無意味な攻防戦が始まってきました。しばらく、電話を見つめてみました。やっぱり電話は鳴りません。



ふと、電話の向こう側を想像してしまいました。

電話を挟んで、私と、見知らぬ誰か。鏡の向こう側に、私と同じように、電話を見つめて、そのタイミングを待っている誰か。《今、そちら側にいる貴方は、何を思っ受話器を握ろうとしているのか?》

私は、とても心細いです。貴方の言葉に、誠実に言葉を返せるのか、とても不安です。貴方が受話器を持ち、もし、私と同じように、ちよつと心細かったり、何かに不安を感じて、気持ちがザワザワしていたり、落ち着かなかつたりしているのなら、この電話機を挟んで見つめあっている私も、同じですよ。『鳴らない電話に向かつて只々、脳内妄想が現実逃避を企て始めました。』



しかし、待てよ。今日は、

殊のほか天気が良い、この晴天に乗じて、気持ちが晴れやかになり、いつもより受話器に気持ちが向いていないのかもしれないではないのか。

ほほお、やっぱりお天道様の力は偉大なのだ。私の頭の中で、燦々と輝く太陽の下、芝生で寝ころぶ人々の姿がありありと浮かびました。

でも、頬杖ついた私の前には、冷静に佇む電話機、そして電話は鳴りません。

『そういう日も、ありますよ』、窓の温かい日差しと共に、同席の先輩が気持ちを和らげてくれる。《さあ、どうぞいらつしやい》、少しの装備で心細さという鎧を身につけている、そんな気負った私の心が丸くなる。はてさて、鳴るのか電話!ドラマなら、ここでCMか次週に続くとなるのでしょうか、そうはいきません。



13時21分、ここから私の「ぬくもりほっとらいん」としての物語が始まりを迎えました。

1度目のコール、心臓がドキンとしました。そして、走馬灯のように、

メモ、ペン……。

2度目のコール、『はい、ぬくもりほっとらいんです』早口で、練習してみる。3度目のコール、あれ??どのボタン押して受話器とるんだっけ?

4度目のコール、『しまつた!3度目で取れなかつた』今度こそ、5度目のコール『はい、ぬくもりほっとらいんです』

あつという間の56分間、『ありがとうございます』受話器を戻した私は、受話器を上げた時から、何か変わったでしょうか。

最初の私の声は、きつと自信なさげに伝わったのではないのでしょうか?もしかしたら、震えていますでしたか?

貴方にとつて気持ちの一部を投げかけたこのひとときが、どのように心にしまわれるのかは知る由もありません。

けれど私は、今日の貴方を忘れることはないでしょう。

貴方が電話をかけてくる前から、私は鏡の向こうの私の姿と貴方を重ね合わせて、ずっと待っていました。貴方が、受話器を手にしようかどうか迷っている姿も、太陽の下で芝生に寝転ぶ姿も私は感じよ

うとしていました。会話の途中で貴方は、「気持ちが落ち込むと空を見上げるんです。下ばかり向いているから」そうおっしゃいました。

私は、『その言葉、気持ちが落ち込むと空を見上げるんですって、素敵なフレーズです』と、言葉を返しました。本当にそう思いました。

今、受け手として歩き出した私は、貴方のその言葉をノートに書き込みました。いつかまた、貴方の電話を受けるかもしれない、その時は又、初めてお話しする受け手として、少し成長した受け手として受話器の向こう側の貴方と、はじめましてのお話をする事ができるといいなあと、思っています。



受話器の向こう側のみならず、これから先、たくさんの方の経験を一緒にさせていたたくつもりでいます。どうぞ宜しくお願い致します。

そして、受話器のこちら側のみならず、未熟者ですが、成長しようという気持ちは持ち合わせていますので、何卒深い愛で、見守って下さい。宜しくお願い致します。

(H・S)